

統計の工夫で職場活き活き

野村正人(広島大学図書館)

毎春の恒例行事

前年度の統計を集計する作業

今までやっていたからやる

結果が出た後ではどうしようもない。

次の行動につながらない

ある大学に赴任して

入館者数が毎年減少している

貸出冊数が毎年減少している

会社で言えば、売り上げの減(深刻)

なのに統計が活用されていない

統計をとれば、分析すれば

統計を分析すれば、

アンケートを集計・解析すれば

課題解決の方法が見つかる？

甘い! そいは幻想

解決方法の設定をしてから統計をとること

 を明確にして統計とる

実感できる数値を

広島市の年間教育費予算 486億円

→ ひとり当たり 41,470円

上の人に関心をもつこと

策は言ってもらわなくていい
一喜一憂してもらうだけでいい

だんな様の体重

一日一万歩歩いたほうがいい。週に二回は休肝日

×

遠慮して何も言わない

△

増えた、悲しい。減った、うれしい。また減った、うれしい。

◎

(復習) 統計を取り始める前に

強い目的意識

実感できる数値を設定

上の人には強い関心を



まずは実践

学生の読書離れ

貸出冊数の減少

入館者数の減少

なんとかしなくては・・・

現状分析

どれだけの減少

長期的な変動なのか

原因は

年報だと

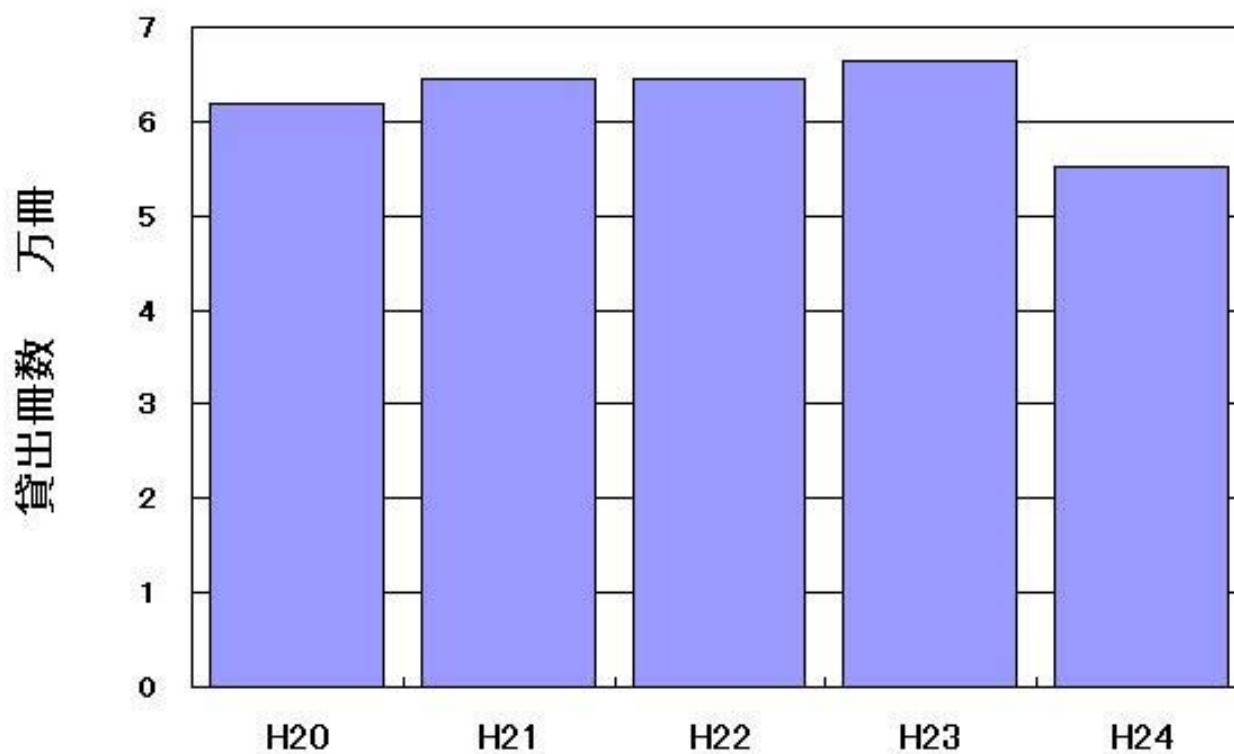


図1 ○○大学図書館の年間貸出冊数

前年同月比だと

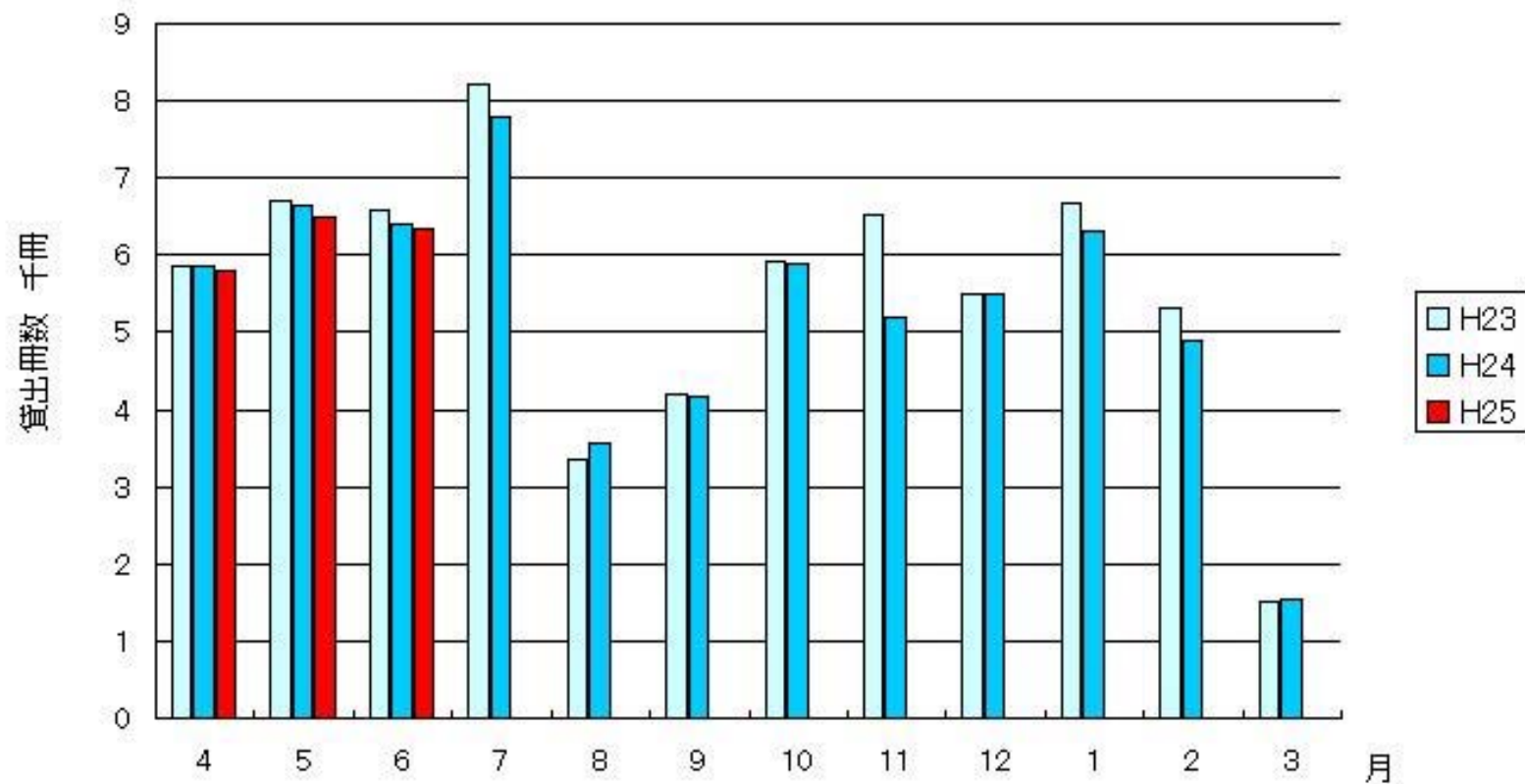
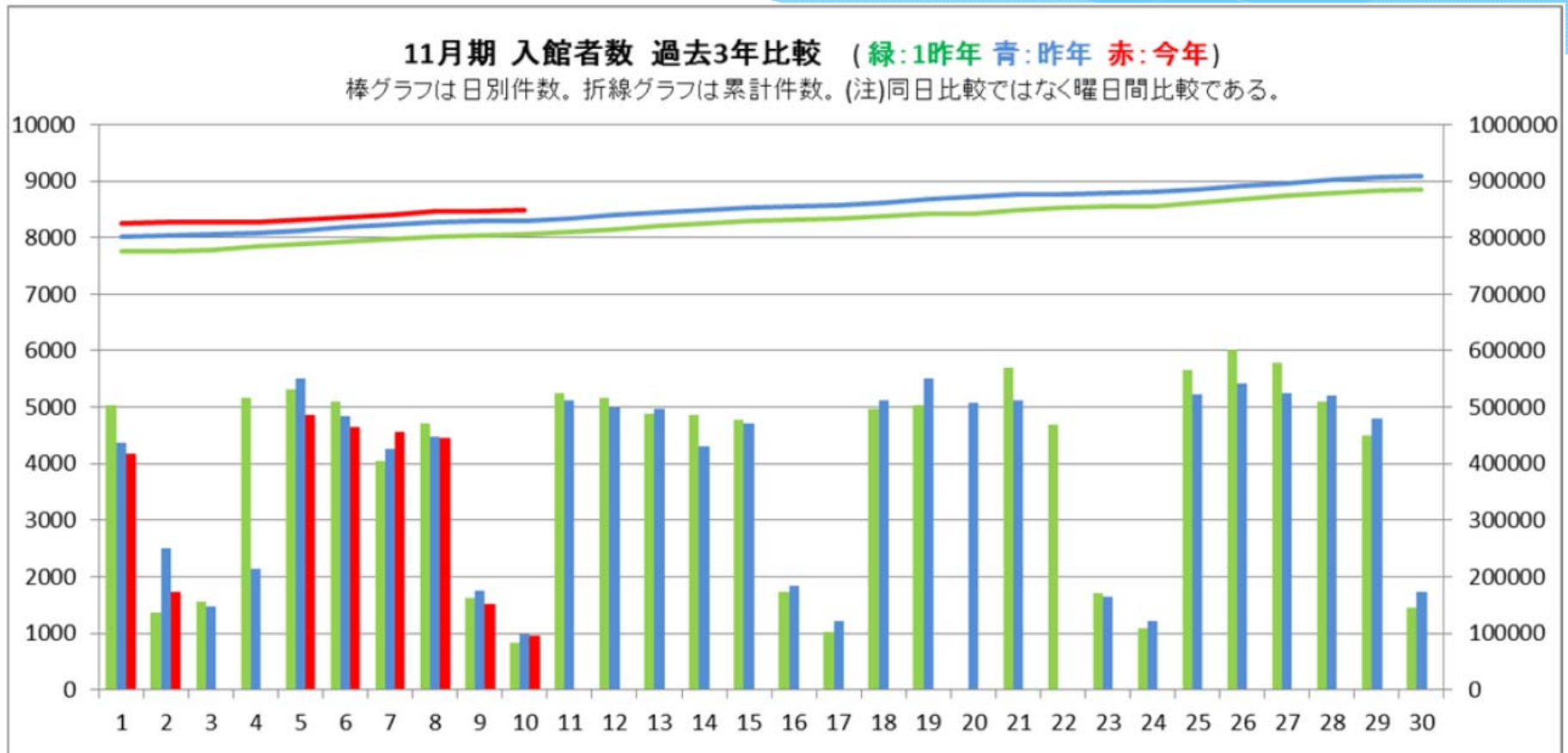


図3 ○○大学図書館の月間貸出冊数

前年同日比といものもある



行動を起こそうとすると

「数字じゃあない」という人が必ず出現
アンケートにアクションしたからと言って
改善するとは限らない

一部の人だけ熱心、長続きしない

→ → 「計るだけダイエット」がある

計るだけダイエット

「計る」ことを毎日行う

太る原因を見つけ、確実にやせていく。

必要なのは体重計、パソコンだけ！

目標は1日50g減！少しずつ体重が減る

簡単だから、手軽に続けられます！

食事を調整したり、運動をふやすことですぐに体重変化がわかるので楽しく続けられます。

グラフにするだけで

毎月の数字を出す
今まである統計を使う
すぐに変化がわかるので楽
しく続けられる

大学図書館は季節変動が大きい

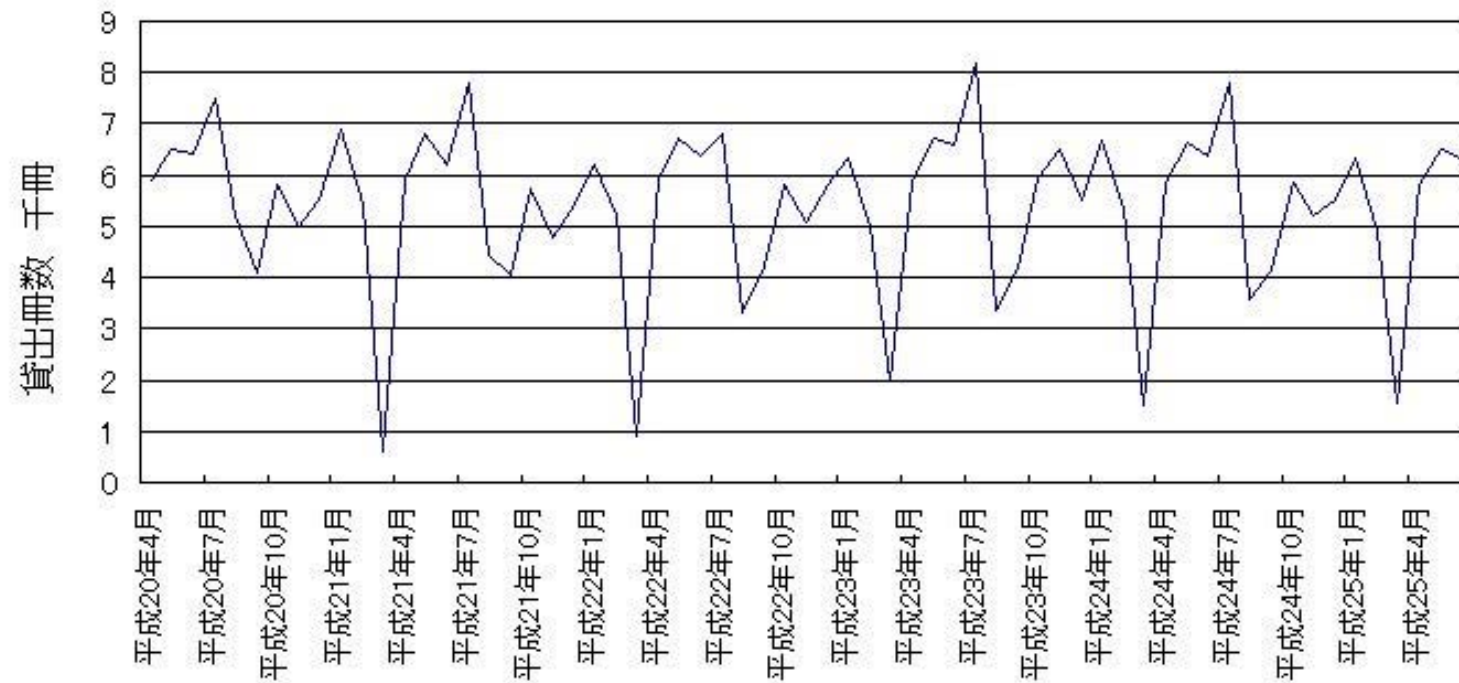


図2 ○○大学図書館の月間貸出冊数

毎月年報値を出してゆけば

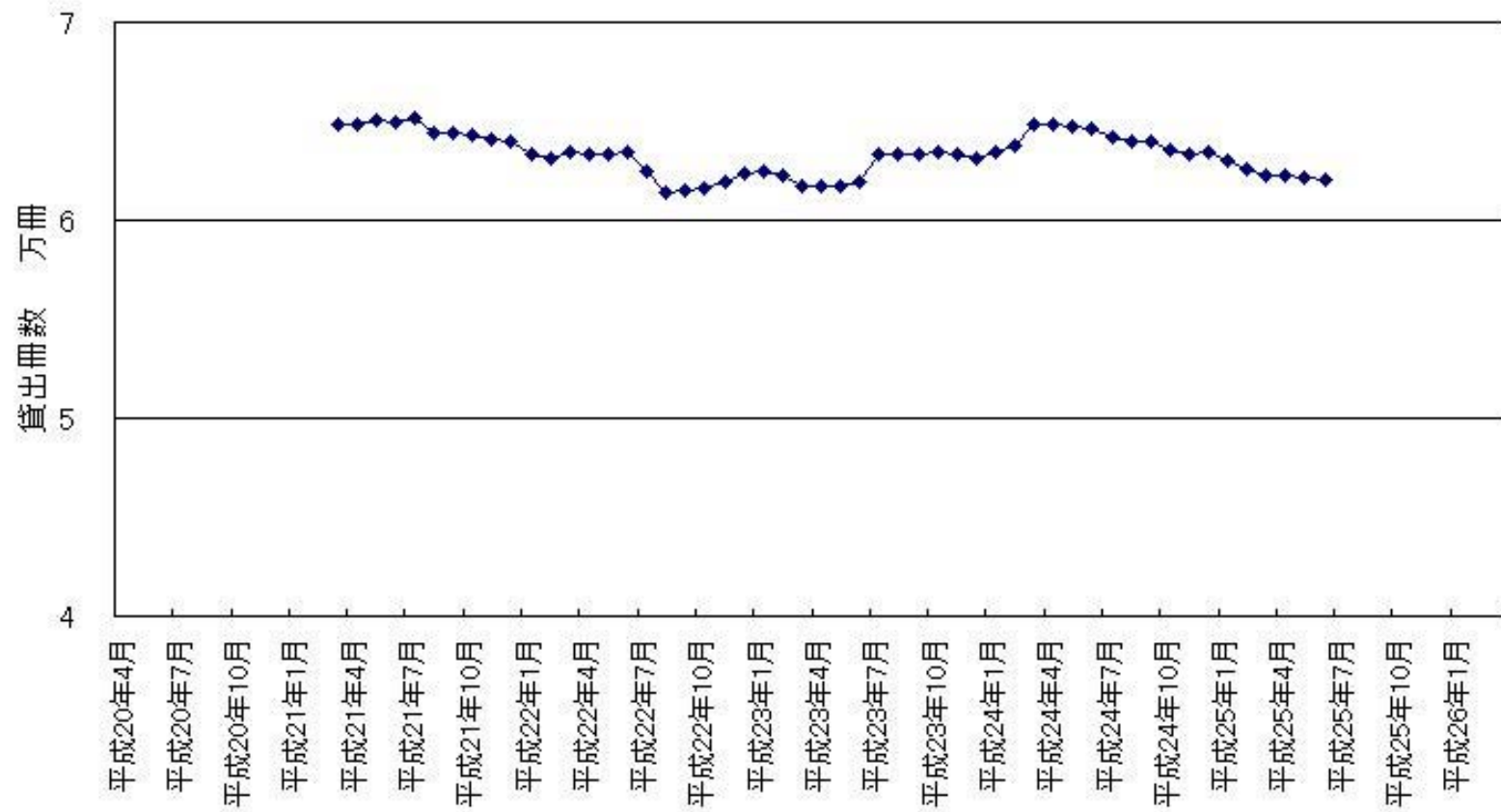


図4 ○○大学図書館の年間貸出冊数

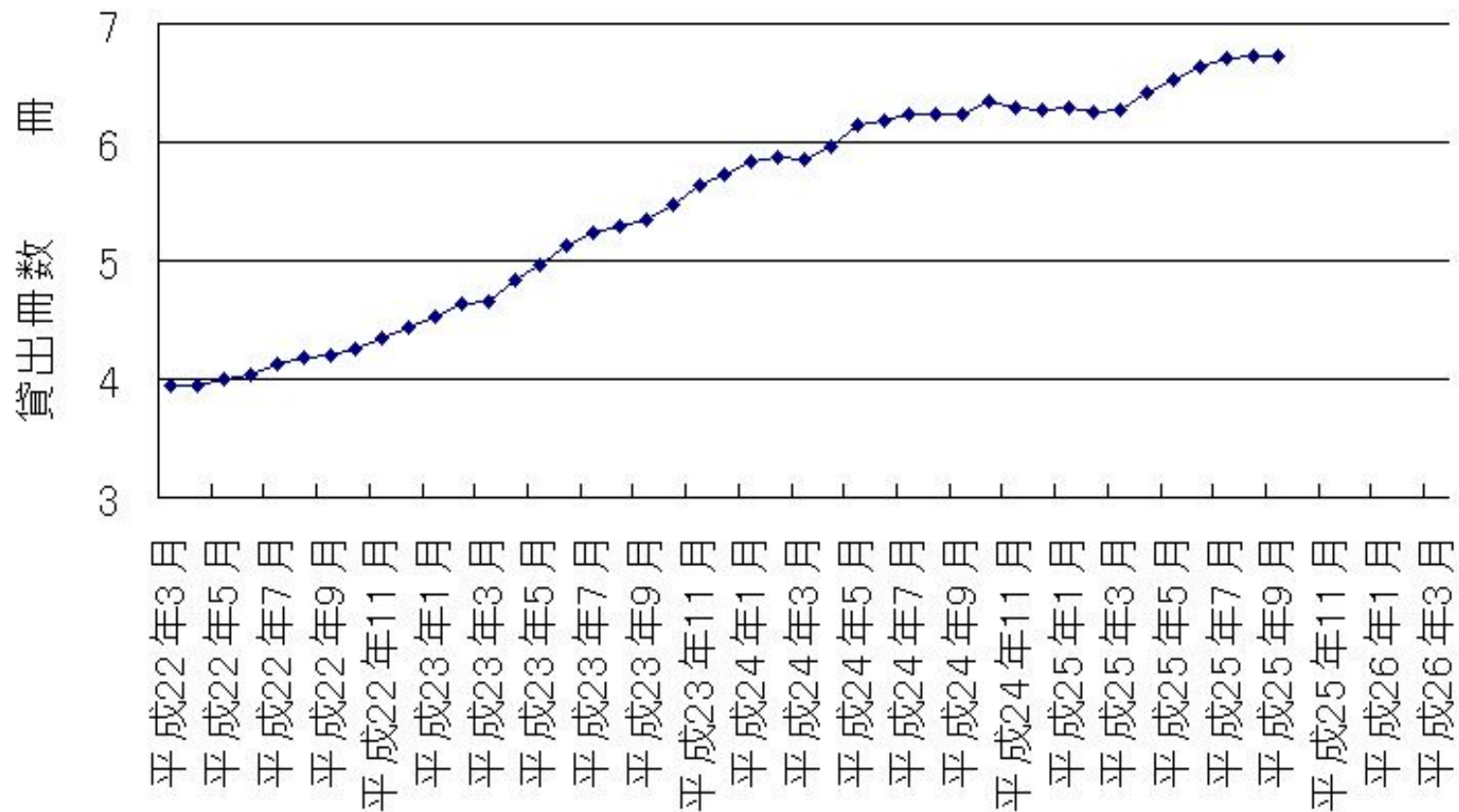
近い未来が見える

年度末3月が見える

その時の成果がどの程度貢献するか見える

佐賀大学での成功例

学部学生一人あたりの年間貸出冊数



なしてうまく行ったのか

課題発見(ショッキングな事態)

全員によるアイデア出し(出すだけでOK)

実感できる数値の設定

結果の周知(発表が毎月楽しみ)

学長、理事の関心度

今日のポイント(これだけは)

正しく、的確に知る

自分のことだと思おう

上の人には関心をもつだけでいい

マエケン研修①

好調な館

右肩あがりには理由があるかもしれない

マエケン研修①

不調な館

右肩さがりには理由があるかもしれない

マエケン研修②

なにかやってみた？

→どれだけの効果が出た、出ない？

この研修の課題ができていなくても、
やってみるチャンスは今後いくらでも
ある

マエケン研修③

100個のアイデア

実現可能性はあとまわし、とにかく100個人
のアイデアに便乗する

「これいいね」をつける(参加する)

新しいタイプの業務改善提案制度 東京大
学での成功例

研修の感想文

「目から鱗が落ちました」

「感動しました」

「いい勉強になりました」

次の日には

もう、次の鱗が生えてしまった
昨日の感動は何だったのだろうか
「理想と現実がちがうけんね」
研修報告書を書いておわり
行動がない、実際の成果が出ない

鱗をすぐに生やさないには

すぐに行動を起こしてしまえばいい

○今回はもう出来ている

すぐに宣言してしまおうという手がある。

聞いたらすぐにtwitter

今日のポイント(これだけは)

正しく、的確に知る

自分のことだと思おう

上の人には関心をもつだけでいい



着手 or 宣言